

令和4年度第3回岡崎市地域包括支援センター・地域密着型
サービス運営協議会会議録

1 日 時

令和4年10月17日(月)14:00~16:00

2 場 所

岡崎市福祉会館2階201号室

3 出席委員

柏原委員、鈴木正博委員、若山委員、鈴木基広委員、竹本委員、茂刈委員、小野委員、太田委員、平野委員

4 欠席委員

なし

5 事務局

福祉部：小河部長

介護保険課：坂田課長、神尾副課長、細野主査、杉浦主事

長寿課：中根課長、藤谷副課長

ふくし相談課：齊藤課長、山下副課長、岩瀬係長、早川主査

6 傍聴者

なし

7 議 事

(1) 地域密着型サービスの事業者について【非公開】

令和5年度整備分地域密着型特別養護老人ホーム及び認知症高齢者グループホーム整備事業者のヒアリング審査

8 報 告

(1) 地域福祉センターの多世代化について【公開】

9 議事録(要旨)

－議事(1)について－【非公開】

－報告(1)について－【公開】

報告(1)について事務局から説明

会長 ご質問ありますか。

鈴木正博委員 地域包括支援センターは20か所あって、その中の7か所をまちサポにするとということでしょうか。岡崎市民にとっては非常にわかりにくいと思います。将来の20ある地域包括支援センターを減らすということでしょうか。

事務局 地域包括支援センターは令和3年4月に施行された社会福祉法改正に伴い、介護保険法の事業ではありますが、包括的相談支援事業になりもう少し広く支援することになっています。そういった意味で

は、昨年度から 20 の地域包括支援センターはすでに機能としてはまちサポができるようにはなっています。地域包括支援センターの現状として、障がいや生活困窮に関する相談対応を既に高齢者支援の中で対応していますし、8050 やひきこもりなどの支援なども実施しています。しかしながら、全ての地域包括支援センターで子どもや障がいのことなどを標榜して対応するのは難しいと考えています。まずは、令和 5 年度から、地域福祉センターにある地域包括支援センターに高齢者以外の対応をする人員を加配してまちサポとし、身近な場所で相談できるようにしていきたいと考えています。市民にわかりにくいというご意見ですが、地域福祉センターから開始してみても、その後 20 センターも含めて検討していきたいと考えています。現時点では地域包括支援センターを減らすということは考えていません。

鈴木正博委員 減らすということはないけれど、20 センターをまちサポにするということでしょうか。

事務局 事業団とは話をしていきまして、事業団包括をまちサポ化しますが、将来的にどうするかは、令和 5 年度から展開した状況をみて考えていきたいので、現時点で方針は出ていません。

若山委員 地域包括支援センターと地域福祉センターはどう違いますか。

事務局 地域包括支援センターと地域福祉センターは別の建物ですか。

事務局 地域福祉センター内に地域包括支援センターがあります。地域福祉センターはデイサービスや老人福祉センターなどの複合施設です。

若山委員 地域福祉センターの在り方と地域包括支援センターの在り方と方向性が違うと思います。

会長 地域包括支援センターの機能全部が変わるという話ではないですね。併設されている地域福祉センターの機能を合わせて試験運用して、上手くいけば増やす可能性もあるかもしれないという話ですね。重層的支援体制整備事業における地域包括支援センターの相談機能の拡大と、地域福祉センターの対象者拡大の説明がまとまっていたので理解がしづらかったと思います。

鈴木正博委員 額田もまちサポですか。

事務局 額田はふくまどです。

若山委員 地域包括支援センターの予算はどこから出ていますか

事務局 昨年度から一般会計から出ています。

若山委員 一般会計だから介護保険の地域包括支援センターの業務と高齢者以外に対する業務を合わせられるということですか。入浴は一般会計ですか。

事務局 一般会計です。デイサービスに係る費用は介護保険ですが、老人福祉センターの入浴は一般会計です。

小野局長 100 円ですね。

若山委員 100 円とっているのですね。修繕費なども一般会計ですか。

事務局 一般会計です。介護認定のない人が利用するので一般会計です。

会長 地域包括支援センターが機能強化するのか、拡大するのか、そのあたりがわかりにくかったと思います。老人福祉センターがどうなっているのか、この会議の議題ではないと思うのですが、複合的な施設になるときに災害時の対応などを含めて地域福祉について説明があるといいのではないのでしょうか。老人福祉センターがどのように地域に根差していくのか、地域福祉に災害対応が重要だと思いますし、子育て世代包括支援センターとの連携なども説明いただくと、地域包括支援センターがどこと連携していてどんな支援をしているというのがわかりやすいと思います。

事務局 地域福祉センターは点ではなく面で地域づくりをしていきたいと考えています。高齢者を排除するつもりではなく多機能化することで事業の多様化が進み、子どもに教えるボランティアや担い手にまわる高齢者の活躍の場を提供できる、だれでも使える居場所にしたいと考えています。

若山委員 地域福祉センターで高齢者が何をしているのかすら知らないで、具体的な話がないとビジョンが見えないです。相談に行ったが、子どもの専門家だから障がいはわからないなどということが起こると思いますので、人的配置などは検討するべきだと思います。

事務局 介護も生活困窮も子どもも対応できるという人はいないので、連携でやっていきたいと思っています。まず、声を上げる場所を作りたい、アウトリーチもしますし、スキルアップ等の研修も行います。

会長 効果測定、評価が難しいと思いますが、パイロット的に広げていくのであれば、今の状況と今後の効果を検証できるといいと思います。ノウハウがたまっていくと納得できると思います。相談件数は少なくなったほうがいいと思いますが、相談が増えればいいという評価はおかしいと思います。地域の力で相談が減ったということを、岡崎発信で評価できるといいと思います。

事務局 地域共生社会の KPI が課題となっています。日本福祉大学の平野先生は体制を評価することを勧めています。相談件数ではなく体制を評価できないかと考えています。